

第四回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成26年10月22日（水）午前10時～

2. 場 所 南区役所3階ホール

3. 出席委員
高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、近藤委員、松岡委員、濱崎委員、森委員、宮本委員、石原委員、田中委員（会長）

4. 配布資料
 - (1)－「会議次第」
 - (2)－「委員名簿」
 - (3)－「【資料1】平成27年度南区のまちづくり事業について」

5. 次第
 - (1) 開 会
 - (2) 平成27年度南区まちづくり推進事業について
 - (3) その他
 - (4) 閉会

6. 議事録

会 長 今回は次年度の事業についての2回目の検討会となる。今日も皆さんの活発なご意見をいただきたい。それでは、平成27年度南区まちづくり推進事業について、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 (【資料1】平成27年度南区のまちづくり事業について説明)

会 長 南区まちづくり推進事業の基本方針の4本柱に沿って意見をいただきたい。1つ目の「南区を知ろう」(情報受発信事業)の充実について意見はないか。

A 委 員 「南区シンボルマーク」は意外と私もどんなのだったか思い出せず、区民がきちんと認識しているのか疑問だ。ただのシンボルマークではなく、区民の共通意識を持つようなシンボルマークだと解釈しているので、もう少し何かアピールできないかと思う。次に「まち歩き手帖」の活用の実践例があれば教えてほしい。また、自分が住む地域のことは知っていても、それ以外の南区の地域がどのような活動をしているのかという情報が不足していたので、「南区だより」はまちづくりの情報を共有するという意味で重要な役割を担っていると思う。最後に、新規事業の「まちづくりコンテスト」に関連して、地域コミュニティ支援事業は利用が多くあったと思うが、これは具体的にどういう活用の仕方があったのか。たとえば、城南では途絶えていた沈目の大蛇踊りを4年前に復活させた。県の補助対象となったが、その後1回だけで終わっていない。このようなまちづくりをどのように継承し、まちづくりにつないでいくのか、具体的にまちづくりにどのように活かしていくかを考えながら継続事業とすることが非常に重要だと思う。

会 長 「まちづくりコンテスト事業」について、現時点で具体的に決まっていることがあれば教えてほしい。

総務企画課 地域でやっているまちづくりのお手本となるようなもののコンテストを想定している。「花いっぱい運動」などを各地域で取り組まれているので、例えば、来年度は花をテーマにコンテストをすることなどを考えている。

会 長 コンテストよりも敷居が低く、参加したい人みんなが参加できる発表会のほうが良いのではないか。あるところでは、「川の日コンテスト」というのが開催されていて、「うちの川ではこんなことをやっている」とか「うちの川の掃除は他とは違う」ということを参加者がいきいきして発表している。競争が目的ではなく、発表することが目的で、参加団体も年々増えている。選定して表彰するのではなく、発表することに重きを置いたほうが良いのでは。

B 委 員 まちづくりコンテストの前に、せっかくするなら、それぞれの地区の課題解決のための事業をメインにもって来たほうがよいのでは。今年は花、来年は

環境美化というように毎年テーマが変わったら、それぞれの地区の実施主体が戸惑うと思う。それよりは特色ある活動とテーマを決めて、それぞれの地区の課題を解決する発表会にすると見学者や参加者が増えると思う。

会 長 継続することが大事。1回きりだったり、テーマが毎年変わるとモチベーションが下がるかもしれない。川コンテストの参加者はとても楽しそうにしている、やらされている感じがなく、「私達は良いことをしているのでたくさんの人に知ってもらいたい」、「自慢したい」という気持ちでやっている。

C 委員 南区だよりは半年に1回、市政だよりは毎月発行されている。市政だよりの南区の頁とリンクして、市政だよりのスペースを区の情報を発信するためにあと1頁ずつ増やし、区だよりを市政だよりに統合したら、5区合わせて1千万ほど予算が浮く。市政だよりは毎月手元に届くので、タイムリーな情報が得られるし、南区だよりと市政だよりは一緒にしても良いのではないか。

会 長 市政だよりと南区だよりの違いを説明してほしい。

事務局 市政だよりはイベントの告知やお知らせが中心となっている。区だよりは地域で取り組まれているまちづくりの話題、南区が行う事業の提供や進捗状況などを掲載している。

会 長 区だよりは年2回しかないなので、発行が少ない分魅力ある情報を掲載しないといけない。

D 委員 市政だよりは市内全域に配布され、活用頻度も高いと思うが、南区民が一番最初に見るのは南区の頁で、区民にとってはいかに身近な情報があるかが大事だ。区だよりは年2回しかないなので、その分1回の情報量が増えるといいと思う。

会 長 区だより発行について、新聞記者の方からアドバイスがあれば教えてほしい。

新聞記者 知っている人が登場すると読む側としては楽しい。この人はこういうことをやっているんだということがわかるし、地域の人材発掘に繋がると思う。

会 長 市政だよりとも新聞とも違う区だより独自の視点を持って発行しないといけない。年2回しかないからこそできることを考えて行く必要がある。

A 委員 「まちづくりコンテスト」を人材育成に繋がるような事業にしてほしい。

会 長 「まちづくりを担う人材育成の充実」については、懇話会でもよく後継者がいないとの指摘が出ており、話題になっている。来年は特にこれと併せて継続事業の「防災のまちづくりリーダー」、新規の「子育て支援リーダー育成」、

「南っこ育成事業」、この4つの事業に力を入れてやっていくことを提案している。これに対してアドバイスなどはないか。

B 委員 「南っこ育成事業」について、「小中学校と連携し、地域の歴史文化を学ぶ講座等を実施」と書いてあるが、この主体者は誰になるのか。

まちづくり
推進課長 地域の伝統や歴史に詳しい方や語り部などが学校に出向いて、子どもたちに話をするを想定している。区内21校区からモデル校区を選んで実施する予定だ。

B 委員 小中学校だけで限定せずに地域の人全員を対象として講座を実施したらどうか。子どもだけでなく、家族全体で地域に詳しくなることが大事だと思う。

A 委員 「南っこ育成事業」について、城南の文化協会と杉上小学校との連携を紹介したい。今年度から杉上校区の子どもたちを地域の力で育てようという取り組みを始め、授業の一環として民謡・生花・俳句などの体験学習を行い、保護者からも好評を得ている。子どもたちは実際に体験させたほうが伸びるし、このように校区ごとに取り組むと効果が高いと思う。まちづくりのために何ができるかを考えると、子どもたちを育てるために小中学校との連携が必要だと思う。

E 委員 私も今の校区に転入してきて、学校の設立時当初のことは良く知らないが、地域の歴史に詳しい方のところに通い、その地域に伝わる話を聞いて、地域や学校の歴史を学ぶ授業で子どもたちに話したところ、とても好評だった。私自身が校区の歴史を知らない子どもたちに伝えられないし、子どもたちだけでなく、親世代や年配の方々にも知ってもらいたい。書物で残っているものではなく、話として残っていることがあると思うので、そういうものも発掘すると子どもたちにも保護者にも地域に対しての愛着が生まれると感じた。

F 委員 奥古閑小学校でもふれあい教室として地域の人が児童と一緒に折り紙したり、将棋をしたりしている。20年以上続いていて、当時児童だった子が今は教える立場になっている。児童が修学旅行で長崎に行って、原爆の勉強をしてきた後に私に戦争のことを教えてほしいと言ってきた。神社など歴史ある物事の経緯を子どもたちが家に聞きに来る。銭塘でも自治協議会がやっている。

会 長 今あるものを新しく学ぶことで、地域に語り継げる人を作ることが大切だ。

G 委員 「健康まちづくりネットワークの育成（新規）」について、ネットワーク連絡会の設置とあるが、連絡会ではどういう方を想定してるのか、情報共有や研修による人材育成の人材とはどういう人を想定しているか。

- 保健子ども課長 21校区の各校区の自治協議会を中心に健康まちづくりに取り組んでいただいております。昨年度と今年度で人材の育成研修会をしてきた。自慢大会の場を設けて、「うちの校区では健康まちづくりをこんなふうに取り組んでいる」という発表をしあって、お互い参考にしてもらいたい。現在まちづくりに取り組んでいる方々を中心にお話をしていただき、それを参考にして各校区でまた議論していただきたいと考えている。
- 会長 連絡会の構成員は健康づくりに取り組んでいる民間の方になるのか。
- 保健子ども課長 各校区で自治協議会などで組織を作られているので、対象としてはその校区の代表の方を想定している。
- 南区次長 健康まちづくりについては、5区中でも西区と南区が一番進んでいると自負している。今年は市政リレーシンポジウムがあり、南区シンポジウムでは御幸校区と富合校区の事例を紹介し、参加されたほかの校区から「進め方がわかりやすく参考になった」と反響があった。5区合同のシンポジウムでもたくさんの質疑が出て、「うちの校区はこんなふうすすめている」というユニークな事例もあった。「進めたいけど、どうしたら良いのかわからない」、「どこから取り組んだら良いのかわからない」という声も多かったので、校区代表者同士が顔見知りになったり、現在は小学校区ごとでやっているが、今後は中学校区の中で協力し合ったり、参考になる情報を共有しあったりできればと考えている。南区内で校区の垣根を越えたつながりを進めたい。
- C 委員 健康まちづくりリーダーの育成は自治協議会が中心となって進めている。シンポジウムに参加したが、参加者はみんな70代の方ばかり。リーダーの育成を図るときにもっと若い40代50代の方を対象に積極的に参加できるように行政から考えてもらえないか。私も自治会長をやっているが、顔ぶれは70代ばかりで若いのはPTAぐらい。PTA活動をやっている保護者世代を地域の活動に取り込みたいと思うが、なかなかうまくいかない。そのあたりを含めて行政のほうで考えてもらって私たちに知恵を貸してほしい。
- 南区次長 健康まちづくりでも若い世代から健康に気をつけようという目的でやっている。子どもを介在とした親世代の30代40代がずっと健康でいてほしい、年配者ももちろん健康でいてほしい。どうすればそれができるかという成功事例が校区内にあれば、みんなで共有して広げていきたい。
- 会長 ②まちづくりを担う人材育成の充実と③テーマに応じた区のまちづくり事業の推進は繋がっている。リーダーを育成しつつ、それを広めて行くと③に書いてある7つの事業に繋がる。防災のまちづくりや健康まちづくり、スポーツ大会など校区を越えて区でやることについてどう考えるか、テーマに応じたまちづくりについて、子どもと年配者だけでなく、若者や保護者世代をここにどうやって呼び込むかを考えると、もっと活性化するのではないか。

E 委員 子どもと年配者は集めやすいが、中間層が集めにくい。この中間層を人材育成の対象にして、今後の活動につなげていきたいと私達も常々思っているが、なかなか難しい。子どもが小さいと親と一緒にだが、小学校に入ると子どもだけの参加になり、保護者は参加しなくなる。そうすると、地域の行事も子どもと年配者だけになることが多い。子育てや教育に悩んでいるお母さん方は多いので、何かの行事のついでに悩みを相談できる時間と場所を設けることが多い。私の校区では、子どもと親と一緒に出てきて、そういう時間を作るようにしている。「子育て支援リーダーの育成」と「南っこ育成事業」を一緒にやると、親も子どもを見ながら親として成長ができるし、子どもは体験しながら成長できる面があり、それで人材として育って行くのではないか。「自慢の一品健康料理コンテスト」について、私の校区でも子育て支援ネットワークで親子料理コンテストをやっているのので、このコンテストを開催することで今私達がやっている取り組みが他の校区へも広がると期待している。

会 長 親子でというのがキーワード。南区シンボルマーク募集の時も「親子で一緒に描く」ことがテーマだった。子どものアイデアがほしかったという理由もあるが中間層といわれる保護者世代を取り込むことも目的の一つだった。

A 委員 子育て支援リーダー育成について、「地域における子育て支援充実を目的とした研修を行う」とあるが、地域の子育て支援グループなど自主的に動いている団体を掘り起こしながら、研修につなげてはどうか。障がい者との共生はまちづくりにとって取り組まなければならない課題なので、障がい者との共生の時代に子育て支援リーダーをどのように育てていくかが課題だと思う。

保健子ども課長 今各校区に子育て支援ネットワークという組織があり、活動を活発にされているところとそうでないところとがある。今、子育て支援ホームページを作成中だが、「子育て支援ネットワークでいろんな活動をして、その情報を発信する場所や手段がない」という声をよく聞くので、ホームページの中にそういう情報を共有できる掲示板としての機能を作りたいと思っている。子育て支援ネットワークの方に相談して実務者レベルの方の方を出していただいて、そこでホームページの記事を作成することも検討している。ネットワークの会長ではなく実際に活動されている若いお母さんたちやホームページ作成に興味のある方を紹介してもらい、一緒にホームページを作っていきたいと考えている。

E 委員 子育て支援ネットワークが必要としているのは子育ての情報だけでなく、他の団体との繋がりや連携や情報の共有の場がほしいと常々思っている。

会 長 保健子ども課も事業をたくさん抱えていて大変だと思うが、他の部署とうまく連携を図りながら進めていただきたい。次に地域エリアの特性を活かしたまちづくりについて、何か意見はないか。まちづくり手帖の第4版とまち歩き探検は繋がっていると思うが、今までやってきたことを無駄にせずに、ま

ち歩き関係の事業を続けてほしい。

- A 委員 「南区“いきいき”フェスタの開催」について、開催地を南区役所に固定せずに持ち回りで開催してはどうか。開催地を変えてやるとそれぞれの地域コミュニティづくりが活発になると思う。地域コミュニティ支援については1回きりの補助なので、継続的な補助してもらえそうな仕組みづくりをしてほしい。
- 会 長 フェスタ開催の持ち回りはアイデアとしておもしろいと思う。区長はどう思うか。
- 区 長 出店やメインステージが可能なスペース、来客用の数百台分の駐車場、ホール、体育館などがあり、今のスケールで対応可能な場所、JR・バスなどの交通アクセス、そういうものを総合的に考えて、富合意外だと城南は可能かもしれないが、それ以外のところは厳しいが、今後検討してみたいと思う。
- 会 長 検討することが大事だ。あそこでやるものだと固定するより、部分開催とか春にもフェスタの別バージョンをやるとか考えても良いのでは。区民の関心も高いと思うので、このような要望があれば検討していただきたい。
- A 委員 城南図書館・児童館は利用頻度が高く、町外・市外からの来場者が多い。児童館のような南っ子を育てる公の施設があることと地域コミュニティづくりと関連させながら地域のまちづくりに繋いでいくという切込みが必要ではないか。
- 会 長 区民参加におけるまちづくりの評価について、積極的に楽しく評価できる方法を考えて行かないといけない。健康づくりをひとりでやっても楽しくないので、誰かと一緒に競ったり楽しみながらやれると良いと思う。
- F 委員 先ほど会長から話があった「川の日コンテスト」では、発表者全員に賞状を渡すし、来場者全員に選好票を渡して投票をしてグランプリを決めている。これを参考にしてこういう事業を進められてはどうか。
- 会 長 このコンテストでは参加者全員が評価され、発表したくなるような仕掛けがある。この事業をアイデアとして活かしてほしい。
- B 委員 城南町と富合町には文化協会があるが、旧熊本市にはなく、公民館活動が代替りの役をしている。文化協会にはいろんな団体が入っているが、公民館はそういう団体がないので、その語り部を探そうという話になり、区役所や公民館で個別交渉で確保されている。南っこ育成事業で学校へ交渉に行かれるときは行事などがあってなかなか時間の確保が難しいと思うので、青少年健全育成協議会の活動の中に南っこ育成事業をとりいれてほしい。そういうこ

とで子供たちの心を育ててほしい。こういうことを今のうちからしておくべきではないかと思った。一番の基礎となる人材確保をよろしくお願いしたい。

A 委員 フットパスについて、今美里町が盛んにやっているが、最近古墳が関西関東で人気だと聞いている。その人気に便乗して塚原古墳公園を活かしたフットパスの取り組みができればいいと思う。「南区を語ろう」というワークショップに参加したが、参加者が非常に少なかった。ほとんどが各校区の自治協の代表者で、一般の参加者が少ない。これは区民意見の聴取が目的だったが、その前に区民が「南区について語ってみよう」、「ワークショップに行ってみよう」と思えるような意識啓発をもっとやるべきだと思う。

会 長 フットパスが盛り上がっている理由は市民主導だからだと思う。フットパスをされている方々は元気でいきいきとされていて、自分たちの地域を歩けるような環境にしようというポジティブな気持ちがベースになっている。ワークショップについては、何のためにやっているのか、ゴールがどこか、をしっかりと示して実施しなければならないと思う。最後に区長から一言お願いしたい。

区 長 今回色々な事業について評価をいただいたが、我々としてはこのまちづくりや南区の魅力を知ってもらいたいと努めていることが本当に区民に伝わっているのかどうか、色々な活動が区民の皆さんのニーズに合っているのかどうかを今一度調べたいという思いから、皆さんの参画の元に評価をしたいと思っている。後継者の問題、住民の意識の問題など課題をいただいたが、人材育成をどうしたらいいのかが我々も掴めていないので、このアンケートの中で人材育成についての住民意識がどうなっているのか、さまざまな団体の方々がどのような悩みを抱えていらっしゃるのか、また、課題解決のための先進的な事例、そういったものをふまえて、色々な調査をしたり、もう少し深く掘り下げる検討組織をつくるなど検討したい。懇話会は2年目となり懇話会運営はどうあるべきなのかと手探りでやっているが、そういったものも含めて、次回にもう一度整理させていただいて、ご提案させていただきたい。